

広島別院だより

Vol.37
夏号

真宗大谷派（東本願寺）
広島別院教化委員会 発行

非核非戦法会が勤まる

兼 原爆死没者追弔会

七月六日、非核非戦法会が勤められました。講

師は上瀬野町龍善寺（安芸南組）住職の宍戸大觀師です。以下、法話の抄録です。

●数値で表現される死

私の祖母と伯母は昭和二十年八月六日、爆心地の島病院で被爆死した。遺体などの痕跡はまったく残っていない。



宍戸大觀 師

広島では原爆で十四万人が亡くなつたと言われるが、時を経た今、数字で表現される死は、一人一人の命の重みを感じ取れなくなっている。沖縄では今年、沖縄慰靈の日に行わせて、戦死者二十四万人の名前を十一日間、二百五十時間かけてすべて読み上げたそうである。亡くなつた一人一人の命の重みを確認しようという試みである。

●和という問い合わせ

戦争中、国が「和」というものを利用して、「一億一心」という名のもと、国民を縛つてきました。

今、コロナ禍にあって「同調圧力」という言葉をよく聞く。無言の社会的圧力は一人一人の人間の尊厳を軽んじた戦争中を思い起こさせる。しか

し「和」といっても他者と仲良く同調できない者もいるのだ。曾我量深師の言葉に

和とは不和なり。不和の悲しみなり

とある。

「和」とは本来、不和の悲しみに気付かせる問い合わせの言葉であり、その悲しみこそがお互いを思いやる「和」の心なのではないだろうか。

●俱会一処の問い合わせ

真宗門徒の墓に「俱会一処（くえいつしょ）」と彫つてある。これも私たちへの問い合わせである。一緒に暮らしていくても互いに会い得ているのか。互いを思いやる心を失つていなかと。一方、遠く離れて暮らす親子が互いを思うなら、それは同じ心で出会えているのである。それと同じ淨土を念ずる時、共に一処に出会えるというの、「俱会一処」なのである。

また、「仏々相念」（ぶつぶつそうねん）という言葉がある。仏と仏が互いに念ずると。実は念する片方の仏は私たちなのだ。なぜ凡夫の私たちが仏に成ると言えるのだろうか。それは淨土の仏は凡夫である私たちを未来に仏に成る者として拝んでいるのだ。つまり仏は私たちに仏に成っていく者としての輝きを見出しているのだ。

●常不輕菩薩

今、ウクライナでは従わぬ者は排除せよと言わんばかりに毎日、人の命が奪われている。そこに一人一人の命の輝きなどは見出されない。

常不輕菩薩（じょうふぎょうっぽさ）は誰に対しても軽蔑することなく、仏に成る者として拝む菩薩である。拝めた者は気味悪がって石を投げたり、棒で叩いたりするのだが、それでも決して拝むことを止めないのだ。すべての者に輝きを見出していく仏や菩薩が今、私たちのあり方を厳しく問うてているのではないだろうか。

真宗の仏事入門講座開催

真宗の仏事入門講座が六月二十三日（第二回）と七月二十五日（第三回）に開催されました。

講師は本山本廟部長の近松誉（ちかまつただし）先生。

第二回講座では、本山の莊嚴（仏具のおかざり）と寺院や家庭のお内仏の莊嚴の関係について、第三回講座では江戸時代の東西本願寺分派や東西本願寺の儀式の違いについての講座でした。

今後の講座について、現在計画中です。内容が決定次第、またお知らせいたしますので、ぜひご参加ください。



近松誉 師

親鸞聖人の生涯を辿る

のちに親鸞の配偶者となつた恵信尼は、晩年親鸞とは離れて暮らしていましたが、娘の手紙により親鸞の訃報を知ります。そして手紙の返信で、次のように昔親鸞から聞いたであろう出来事を書き連ねています。

「その昔、（比叡）山を出て六角堂に百日お籠りになつて、後世をお祈りになつたが、九十五日目の晩に聖徳太子の文を結んで、示現にお与かりになつたので、直ちにその晩にお出になつて、後世の助かる縁にお会いになりたいとお尋ねして、法然上人にお会いになつた。……」（恵信尼消息 第一通、現代語訳）

比叡山を下りて法然に出会つたという昔話をしたということは、親鸞にとつての本当の人生は、まさに法然との出会いから始まつたんだ、ということだつたのでしよう。そして法然のもとに入門するきっかけとなつたのが、六角堂への参籠中（さんろうちゅう）、聖徳太子の夢告を受けたことです。

この六角堂ですが、聖徳太子が創建したと伝えられています。（実際は平安時代と考えられます）当時は救世菩薩（くせぼさつ）と聖徳太子が同一視されており、貴族たちも多く参詣しました。また観音が夢に示現し詩歌で予言する、といった民間信仰もあつたそうです。山を降りた親鸞は、救世菩薩に自らの道を尋ねるために、来る日も来る日もひたすら六角堂に籠つたの

9月26日(月)秋彼岸会

【講 師】 泉原 寛康 先生（広島市南区比治山 法正寺住職）

【日 程】 14:00～勤行と法話 16:30 終了予定

＜彼岸はさとりの世界。昼と夜の時間が等しくなるお彼岸の時節に、

A portrait of a man with a shaved head, wearing a traditional Korean robe (Hanbok) with a blue and white patterned sash. He is standing in front of an ornate golden altar with various offerings and decorations.

12月7日(水) 8日(木) 講思恩

【日 程】 7日(水)14:00~ 8日(木)8:00~・10:00~

【講 師】 7日(水)北広島町順覚寺 住職 淀渕一思 先生

8日(木)銀山町徳栄寺 住職 灘尾 寛先生

親鸞聖人のご祥月命日を縁として勤める浄土真宗の最も大切な法要です。

毎月5日 定例法話（ご今日の集い）

【講 師】県内僧侶(月替わり)【日程】14:00~勤行と法話(15:00 終了予定)

〈庄島別院開基 教如上人の御命日（毎月 5 日）に法話会があります。〉

講座・法要・定例法話にお参りの際は、マスク等してコロナウイルス感染拡大防止にご協力ください。

ここ五年ほど、毎年これまでにない暑い夏だといわれています。室温28度を超えると危険だといわれています。ちなみに今は30度を越えています。皆さんは適宜エアコンを使用してください。

何とかならんかなとインターネットで書き対策と調べると、大体5300万件ヒットします。一つの記事を1分で見ていくと100年かかります。今の時代、特にインターネットでは情報が氾濫してしまいます。表面的な情報はたくさんあります、重要なことはめったになく、直接専門家や知ってる人から聞くしかないそうです。

仏教の学び方に解学（げがく）と行学（ぎょうがく）という二つの学び方がありますが、解学は情報、知識として仏教を学ぶことであります。これは誰でもできますし、やる気があればどこまでも学んでいけます。一方行学とは、自分の生き方を仏教に学ぶことです。情報だけでなく、仏教を中心として生きる人から学ぶ・聞くということがあつて初めて、自分の生き方が課題となるのでしょう。

【編集室より】

N
•
T

